



こんどう
近藤 千鶴
(無会派)



環境
都市整備
総務
教育
選挙管理

富士宮南原太陽光発電新設事業について

- 問** **オリフィス***6 工事の中断を認識しているか。
- 部長** 事業者が工事を自主的に中断し、安全性の高い施設にするために再検討を行っている。
- 問** 工事が中断というのは、安全神話が崩れたのではないかと。令和7年の盛土規制法の改正で、新たに申請し直しているのを把握しているか。
- 部長** 市の権限が及ばない。見守っている。
- 問** 市民の生活を守るのは市も県もない。現場は富士宮市。西の里を守る会の勉強会に参加し、共にやっていってほしい。
- 部長** 現時点は許可権限が県。慎重に注視する。
- 問** 私は警告文や事情聴取を受けている。市民の知る権利も奪われている。市として、事業者に責任をもって行うように指導できるか。
- 部長** なかなか難しい。

意見 沈黙している市民が、理解、納得しているというのではなく、その沈黙の背景に恐れとか遠慮とか諦めがないか、ぜひ見つめて頂きたい。

(仮称) 富士宮市立郷土史博物館事業について

- 問** 12回の説明会を見て、不安や反対、疑問の声しかない。極めて異例。このままいっただけ行政不信に陥ってしまうのではないかと。
- 部長** まずはこの基本計画を策定したい。
- 問** 住民投票において選管の仕事はできない理由を探すのではなく、いかに公平に執行していくかということ。前回のやる前からできないというのは、市民の正当な権利を奪ってしまっている。今度はそういうことがないように。議会の議決によっては、住民の中で、もう一度直接請求をやるという声がある。署名を集めたら、やるという認識でいいのか。
- 部長** できないのではなく困難。住民投票の一票一票が正確に結果に反映されるということが大事。過程も同様で、準備万端な状態であることが、住民投票に誠実に向き合うということ。



やまふじ
山藤 陽子
(公明会)

保険福祉



高齢者の肺炎予防の啓発とRSウイルスワクチン*7接種の公費補助について

- 問** 本市における高齢者の肺炎による死亡の現状と今後の見込みについて。
- 部長** 死亡者数は、令和3年度、男女合計64人。令和4年度、85人。令和5年度、105人。今後も増加傾向が続く見込み。
- 問** RSウイルスワクチン感染症の周知と感染予防の注意喚起は行っているのか。
- 部長** RSウイルス感染症は健康な成人であれば、発熱、鼻水、鼻づまり、せきなどの一般的な風邪の症状だが、乳幼児や、心臓病、ぜんそくなどの基礎疾患によって免疫力が低下した高齢者が感染すると肺炎や気管支炎を引き起こして重症化しやすい急性の呼吸器感染症である。高齢者学級、寄り合い処などの事業で、RSウ

イルスだけでなく、感染症全般の予防について説明を行い、注意喚起している。65歳未満の方は、ウイルスの感染後に、重症化リスクが高まる生活習慣病の予防について、企業などで健康講座を実施している。

- 問** 肺炎球菌ワクチン接種者が少ない。職場の健康講座で感染症について、内容を加える考えはあるか。
- 部長** 講座の内容を事前に打ち合わせをしている、要望があれば行う。
- 問** 基礎疾患を持つ高齢者にRSウイルスワクチン接種の公費補助を。
- 部長** 国の動きを注視していきたい。

